

平成20年3月期(第67期)ご報告

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで



日機装株式会社

証券コード 6376



代表取締役社長

甲斐敏彦

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。いつも、格別のご支援をいただき、まことにありがとうございます。ここに、日機装グループの平成20年3月期（第67期）の事業の概況をご報告いたします。

中長期的方針のもと、事業のグローバル化、戦略的な事業展開、生産性向上、開発強化などに取り組んでまいりました。おかげで、事業基盤は着実に強化されつつあり、当期は、受注、売上、営業利益が過去最高となりました。しかしながら、経常利益、当期純利益は、期末にかけての円高と株安の影響により、前期に比べて減少しました。

業績

当期は、原油価格や原材料の世界的な高騰、米国経済の失速懸念などの不安な材料を抱えながらも、当社グループの事業環境はおおむね堅調に推移し、受注高は77,374百万円（対前期比10.2%増）、売上高は72,531百万円（同10.9%増）、営業利益は6,908百万円（同20.4%増）と好調でした。一方、経常利益は6,369百万円（同0.6%減）、当期純利益は3,657百万円（同8.9%減）となりました。

工業部門は、お客様の設備投資の増加に対応して営業戦略を展開し、国内外で業績を伸ばしました。下期には、各業界で設備投資を抑える傾向も見られましたが、海外のエンジニアリングメーカーからのポンプの大口受注や、クライオジェニクポンプ需要の確実な取り込み、電力向け新設の水質調整装置の売上の伸長、民間航空機機体メーカーの生産増加にもなうカスケードの好調な出荷などが寄与しました。

医療部門は、海外市場では期待した水準には達しませんでした。国内では、医療制度の見直しによって病院経営が厳しさを増し、買い控え傾向が続く中、下期にリリースした多用途に使える新型透析装置が、同型機種としては過去最高を

第67期決算のポイント

- **受注、売上、営業利益が過去最高**
- **工業部門、医療部門とも増収、増益**
- **利益面で、円高、株安の影響**
- **次代に向けた積極的な設備投資**

売り上げ、業績拡大に貢献しました。また、血液回路、透析用剤など透析関係の消耗品の販売も堅調でした。

さらなる飛躍のために

アメリカ・ヒューストンでは、ノンシールポンプ事業が軌道に乗りつつあり、また、ラスベガスの子会社では、クライオジェニックポンプの生産増強に備えた工事を行なっています。

東京・東村山の流体機器工場では、生産効率を大幅に向上させるための設備更新やプロセスの見直しが進行中です。

静岡の複合材製品工場では、最新鋭の機械設備を導入し、航空機用部品のカスケードの生産能力が1.8倍になっています。これまで培ってきた開発・生産技術力がさらに発揮できる環境ができあがりました。

増える需要に備えるため、金沢工場ではダイアライザーの増産体制が、またベトナム・ホーチミンの子会社では血液回路の増産体制が、それぞれ整いました。

ドイツ・ハノーバーでは、今年7月のヨーロッパ向け人工腎臓装置の本格生産に向けた準備を急ピッチで進めています。

さらに、世界有数の総合ポンプメーカーであるドイツの

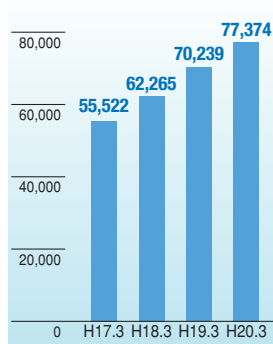
KSB社との業務提携を通じたヨーロッパ市場へのポンプ事業の拡大や、それぞれの主力製品群や事業内容が補完関係にある米国バクスター社との透析関連事業の推進など、さらなる飛躍を目指してまいります。

これからの日機装グループ

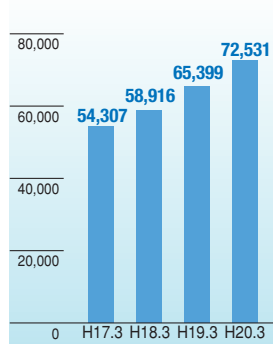
次期も、米国経済や日本経済の不透明感、円高・ドル安、石油をはじめとする原材料費の高止まりなど、厳しい経営環境が続くものと認識しております。このような中、日機装グループは、当期の成果のもと、中期的展望に立った戦略的なグローバル事業の展開、新たなビジネスモデルの構築などを通じて経営基盤をいっそう強化していくとともに、業務の効率化、コストの削減、内部統制の整備にもつとめ、株主の皆様の期待にお応えしてまいりますので、引き続き、厚いご支援をお願い申し上げます。

平成20年6月

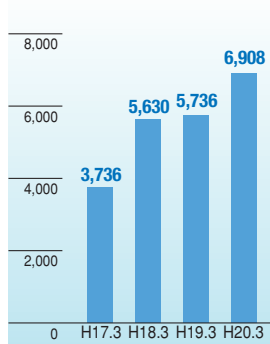
受注高 (単位：百万円)



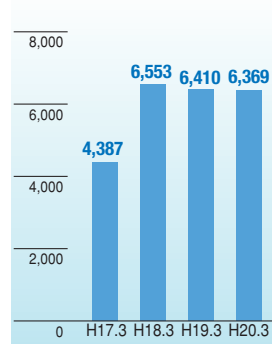
売上高 (単位：百万円)



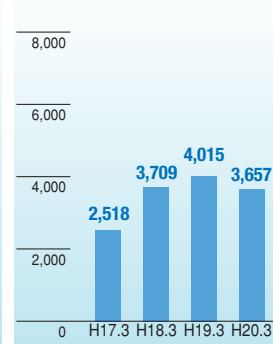
営業利益 (単位：百万円)



経常利益 (単位：百万円)



当期純利益 (単位：百万円)



部門別の事業の概況

() 内は前年同期比

工業部門 受注高 **39,112**百万円 (8.6%増)
売上高 **34,225**百万円 (9.2%増)

流体技術カンパニー

受注高 **22,641**百万円 (4.9%増)

売上高 **18,280**百万円 (4.0%増)

ノンシールポンプ、ミルフローポンプなどの主力製品については、海外からの大型受注が業績に寄与しました。

クライオジェニックポンプについては、設備投資需要が引き続き根強いものの、当期の受注についてはお客様のプロジェクトの次期へのシフトなどが発生したこと、売上については当期が出荷の谷間にあたったことなどから、受注、売上は、きわめて高い水準にあった前期を下回りました。

昨年再編成した米国サンダイン社との合併会社を通じたサンダインポンプ事業は、受注、売上とも順調に推移しました。

事業内容

無漏洩ポンプ(ノンシールポンプ)、高精度定量注入ポンプ(ミルフローポンプ)、高速遠心ポンプ(サンダインポンプ)、液化ガスに使用される極低温用ポンプ(クライオジェニックポンプ)などを中心とする製品の製造・販売・メンテナンスを行なっています。



ミルフロー®ポンプ

カンパニー別

25.2 %

14.4%

7.6%

インダストリアル ソリューションズ カンパニー

受注高 **11,005**百万円 (9.6%増)

売上高 **10,462**百万円 (11.7%増)

当期は、電力向け水質調整装置の国内外新設向けが好調であり、また電子部品生産機器も主力の温水ラミネータに加え新規開発品の自動積層機の引き合いも活発で、受注、売上増に寄与しました。

粉体機器関連製品についても引き続き順調であったほか、新しく取り組んでいる工場排水処理装置も徐々に実績が出てきています。

事業内容

火力・原子力発電所を中心とする各種産業向け水質調整装置およびこれらの周辺自動化装置などを組み合わせたシステム製品、温水ラミネータ等の電子部品生産機器、粉粒体の粒度分析計などの製造・販売・メンテナンスを行なっています。



廃水処理プラント

複合材カンパニー

受注高 **5,464**百万円 (24.3%増)

売上高 **5,482**百万円 (24.9%増)

当期は、航空機業界の好況が続く中、各民間航空機機体メーカーの生産機数が増加し、当社のカスケードおよびその他航空機用複合材製品の出荷が好調に推移しました。また、国内向け人工衛星用部品も新たな顧客を獲得でき、販売、出荷数の増加を実現しました。その結果、受注、売上ともに前期の実績を大幅に上回ることができました。

また、当期上期に完了した生産能力増強、生産効率向上のための複合材製品工場の拡張工事に引き続き、下期には予定されていた新規設備の導入も完了し、今後の生産増に対する体制が整いました。

事業内容

炭素繊維強化複合材製品の製造・販売を行なっています。主力製品は航空機用逆噴射装置部品(カスケード)です。



カスケード

医療部門

医療機器カンパニー

受注高 **38,262**百万円 (11.8%増)

売上高 **38,306**百万円 (12.4%増)



事業内容

人工腎臓装置、ダイアライザー、血液回路、粉末型透析用剤などの血液透析関連製品や人工臓器等の医療機械・器具の製造・販売・メンテナンスを行なっています。

多用途透析用監視装置
DCG®-03

国内では、医療制度の見直しにより病院の経営環境が厳しさを増し、主力の血液透析関連の市場では人工腎臓装置の買い控え傾向が続きましたが、下期にリリースした新型の人工腎臓装置が順調に売上を伸ばし、売上は前期を上回りました。

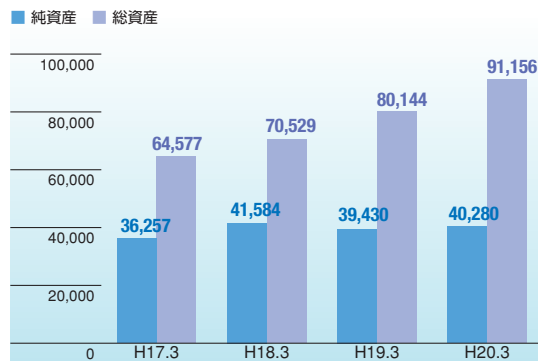
また、透析関連消耗品は、需要の増大に備えるため、金沢工場ではダイアライザーについて、またベトナムの子会社では血液回路について、それぞれ増産体制が整い、順調にその販売数量を伸ばしています。さらに、粉末型透析用剤の売上も好調でした。

海外では、一昨年末に買収したドイツ子会社で、本年7月からの人工腎臓装置の生産開始に向けて設備投資を進めています。また、海外市場の需要増に向けて販売網の整備、拡大を行ないました。

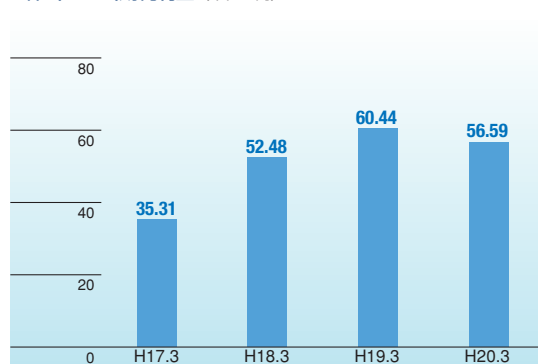
売上構成比

52.8%

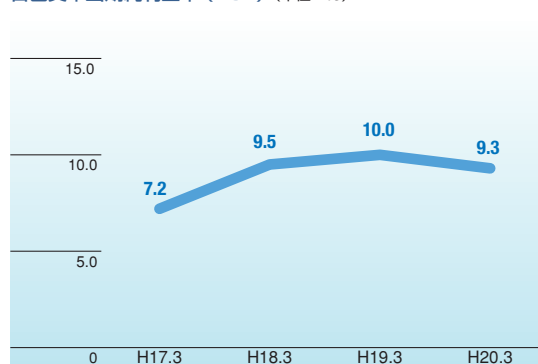
総資産・純資産 (単位:百万円)



1株当たり当期純利益 (単位:円)



自己資本当期純利益率 (ROE) (単位:%)



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当 連 結	前 連 結	科 目	当 連 結	前 連 結
	会計年度末	会計年度末		会計年度末	会計年度末
	平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在		平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	56,502	45,547	流動負債	29,212	29,954
現金及び預金	10,829	6,413	支払手形及び買掛金	11,109	10,294
受取手形及び売掛金	28,738	25,917	短期借入金	7,342	6,991
たな卸資産	14,589	11,441	一年以内返済予定長期借入金	1,840	6,910
繰延税金資産	1,332	1,136	未払金	2,898	1,157
その他	1,163	837	未払消費税等	40	39
貸倒引当金	△151	△198	未払法人税等	1,720	1,072
固定資産	34,654	34,597	未払費用	565	523
有形固定資産	20,513	17,069	賞与引当金	1,812	1,648
建物及び構築物	10,279	8,834	役員賞与引当金	74	67
機械装置及び運搬具	3,950	3,161	設備関係支払手形	142	52
土地	3,714	3,592	その他	1,666	1,196
建設仮勘定	624	456	固定負債	21,663	10,760
その他	1,944	1,024	社債	6,000	—
無形固定資産	1,986	1,932	長期借入金	14,284	8,272
のれん	1,288	1,330	繰延税金負債	956	2,053
特許権	146	175	退職給付引当金	219	184
電話加入権	43	43	役員退職慰労引当金	191	238
その他	507	383	長期預り保証金	11	11
投資その他の資産	12,154	15,594	負債合計	50,876	40,714
投資有価証券	10,184	14,147	純資産の部		
長期貸付金	49	44	株主資本	38,292	35,427
繰延税金資産	36	35	資本金	6,094	6,094
破産更生債権等	17	21	資本剰余金	10,272	10,272
前払年金費用	770	241	利益剰余金	29,083	26,201
その他	1,112	1,123	自己株式	△7,158	△7,141
貸倒引当金	△16	△18	評価・換算差額等	1,397	3,449
資産合計	91,156	80,144	少数株主持分	591	553
			純資産合計	40,280	39,430
			負債純資産合計	91,156	80,144

連結損益計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当 連 結	前 連 結
	会 計 年 度 平成19年4月 1日から 平成20年3月31日まで	会 計 年 度 平成18年4月 1日から 平成19年3月31日まで
売上高	72,531	65,399
売上原価	49,416	45,045
売上総利益	23,115	20,353
販売費及び一般管理費	16,207	14,617
営業利益	6,908	5,736
営業外収益	858	1,078
営業外費用	1,397	405
経常利益	6,369	6,410
特別利益	1,055	115
特別損失	742	277
税金等調整前当期純利益	6,682	6,248
法人税、住民税及び事業税	2,880	2,102
法人税等調整額	167	108
少数株主利益	△22	22
当期純利益	3,657	4,015

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当 連 結	前 連 結
	会 計 年 度 平成19年4月 1日から 平成20年3月31日まで	会 計 年 度 平成18年4月 1日から 平成19年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,101	937
(うち減価償却費)	(2,411)	(1,919)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,840	△7,594
(うち有形固定資産の取得による支出)	(△4,663)	(△2,990)
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,275	4,718
現金及び現金同等物に係る換算差額	△249	140
現金及び現金同等物の増減額	4,287	△1,798
現金及び現金同等物の期首残高	6,278	8,077
現金及び現金同等物の期末残高	10,565	6,278

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

当連結会計年度 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等			少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	為 替 換 算 調 整 勘 定	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		
平成19年3月31日残高	6,094	10,272	26,201	△7,141	35,427	2,978	471	3,449	553	39,430
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△775		△775					△775
当期純利益			3,657		3,657					3,657
自己株式の取得				△24	△24					△24
自己株式の処分		△0		6	6					6
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△2,133	81	△2,051	38	△2,013
連結会計年度中の変動額合計	—	△0	2,881	△17	2,864	△2,133	81	△2,051	38	850
平成20年3月31日残高	6,094	10,272	29,083	△7,158	38,292	844	552	1,397	591	40,280

個別財務諸表

貸借対照表

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当事業年度末	前事業年度末
	平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在
資産の部		
流動資産	47,033	40,442
固定資産	34,982	34,978
有形固定資産	16,363	14,155
無形固定資産	364	263
投資その他の資産	18,255	20,558
資産合計	82,016	75,420
負債の部		
流動負債	25,832	29,189
固定負債	20,182	10,514
負債合計	46,015	39,703
純資産の部		
株主資本	35,156	32,744
資本金	6,094	6,094
資本剰余金	10,271	10,272
利益剰余金	25,947	23,516
自己株式	△7,158	△7,139
評価・換算差額等	843	2,972
純資産合計	36,000	35,716
負債純資産合計	82,016	75,420

損益計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

科 目	当事業年度	前事業年度
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
売上高	61,543	57,708
売上原価	44,568	42,082
売上総利益	16,974	15,626
販売費及び一般管理費	11,209	10,713
営業利益	5,764	4,912
営業外収益	1,178	971
営業外費用	1,345	354
経常利益	5,597	5,530
特別利益	1,037	61
特別損失	821	197
税引前当期純利益	5,813	5,394
法人税、住民税及び事業税	2,343	1,816
法人税等調整額	263	155
当期純利益	3,206	3,421

株主資本等変動計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

当事業年度 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	株 主 資 本							評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	資 本 金	資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金		自 己 株 式	株 主 資 本 合 計		
		資本準備金	その他 資本剰余金	利益準備金	その他 利益剰余金				
平成19年3月31日残高	6,094	10,251	21	1,461	22,054	△7,139	32,744	2,972	35,716
事業年度中の変動額									
剰余金の配当					△775		△775		△775
当期純利益					3,206		3,206		3,206
自己株式の取得						△24	△24		△24
自己株式の処分			△0			5	5		5
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)								△2,128	△2,128
事業年度中の変動額合計	—	—	△0	—	2,431	△18	2,411	△2,128	283
平成20年3月31日残高	6,094	10,251	20	1,461	24,486	△7,158	35,156	843	36,000

超微粒子測定装置「ナノトラックUPA」

日機装は、約30年前からレーザー光を用いた粉体計測機器の草分けとして粉粒体の分析分野に貢献してきました。ナノ(10億分の1)メートル単位からセンチメートル単位まで、幅広い範囲をカバーする製品ラインアップを誇り、研究・開発用途を中心として、国内外のさまざまな分野で利用されています。今回は、超微粒子測定装置「ナノトラックUPA」をご紹介します。



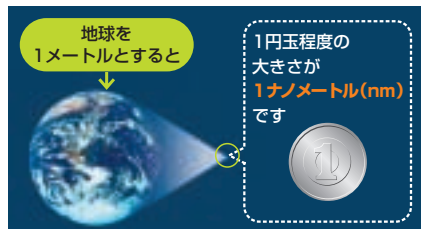
ナノトラックUPA-EX150

実は身近なナノトラックUPA

ナノトラックUPAは、液体の中に含まれる、きわめて小さな粒子の大きさを測定する装置です。その測定対象は、最小で直径8オングストローム(=0.8ナノメートル)。わずか原子1個程度の超微粒子を測定することができます。

私たちの普段の暮らしとはまったく縁がない装置のように思われるかもしれませんが、実は、非常に身近な製品の生産工程にも活用されています。その代表例は、インクジェットプリンターのインク製造工程。最近のインクジェットプリンターが、銀塩写真に負けないほど美しい画像をプリントすることができるのは、インクに含まれる「顔料」の大きさが、ナノレベルでコントロールされているためです。インクの製造現場には、必ずナノトラックUPAがあるといっても良いほど普及しています。

食品や化粧品の開発現場でも、ナノトラックUPAは活躍しています。食品では、添加物などの粒子の大きさによって、食感や有効成分の吸収度合いが変わってきます。化粧品でも同様に、肌触りや「きめ」の細かさ、日焼



け防止効果などが、粒子の大きさによって左右されるのです。

このようにナノトラックUPAは、幅広い製品の開発や生産に役立てられており、今後もその市場はさらに広がっていくことが期待されています。

ナノの世界に迫る

ナノトラックUPAが微細な粒子の大きさを測定できる仕組みを、簡単にご説明しましょう。液体に分散している粒子は、ブラウン運動と呼ばれる不規則な運動をしています。この揺れ動いている粒子にレーザー光を当てると、レーザー光は動いている多数の粒子にぶつかって反射し、戻ってきます。戻ってきたレーザー光と最初のレーザー光を比べることで、どの程度の大きさの粒子が、どの程度の割合で分布しているかを知ることができるのです。

人間の目にはまったく見えないような原子、分子の世界を自在に操る「ナノテクノロジー」は、科学技術に大きな革新を起こす可能性を秘めた新領域として、注目を集めています。



x3万倍

1μm

酸化ケイ素(シリカ)

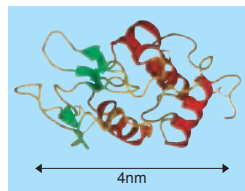
電子デバイスや先端医療などの分野では、ナノテクノロジーを利用した画期的な製品や技術が、次々に実用化さ

れています。

ナノトラックUPAは、このナノテクノロジーを陰で支える重要な役割を担い、活躍の場を急速に拡大しています。1990年の販売開始以降、研究機関や電子部品メーカーなどに相次いで採用され、国内ではおよそ50%程度のトップシェアを確保。海外でもトップクラスの販売実績を残しています。

医薬品・バイオテクノロジーでも脚光

近年ナノトラックUPAが注目を集めているのが、医薬品やバイオテクノロジーの分野です。病気の原因を探ったり新し



リゾチーム(タンパク質)

い薬を開発したりする際には、数ナノメートル程度のタンパク質の立体的な構造を解析することが重要になります。このためには、微量のタンパク質を集めて「結晶化」する必要があり、この分野でナノトラックUPAが非常に有用であることが最近確認されました。

これまで工業分野での普及が先行していたナノトラックUPAですが、今後は製薬会社や医学系の研究機関、大学などへのアプローチを強化して新たな販路を開拓し、世界中の人々の健康で快適な暮らしにも貢献していけることを願っています。

ドイツKSB社と業務提携 新キャンドモータポンプを欧州で開発

平成20年4月、世界有数の総合ポンプメーカーであるドイツKSB社と欧州市場向けキャンドモータポンプの開発、生産、販売に関する業務提携契約を締結し、ドイツに新設する合弁会社で同ポンプの新シリーズを開発します。新シリーズは平成22年から欧州をはじめロシア、中東、アフリカ市場向けに販売を開始し、3年後には欧州での売上規模を現在の3倍である20百万ユーロに増加させる予定です。

近年、世界的に環境問題への関心が高まる中、環境に悪影響を及ぼす

液体を外部に漏らさないキャンドモータポンプのニーズが着実に広がっています。とくに欧州ではその需要

が高く、当社では、キャンドモータポンプの販売戦略上、きわめて重要な地域として位置づけています。



業務提携記念式典



当社製キャンドモータポンプ
(ノンシールポンプ)

LTCC基板の生産自動化システム開発

携帯電話の通信用高周波部品やGPS(全地球測位システム)などに使用されるLTCC基板(低温同時焼成セラミックス基板)生産自動化システムの開発を推進しています。すでにシステムの一部として使用される高精度積層装置「Hi-Stacker (ハイスタッカー)」の開発は完了しており、販売開始から予想を上回る実績をあげています。

現在は多層基板の層間接続を行なうスルーホール形成装置と、回路パターン印刷装置を開発中で、平成20年度中の販売を計画しています。

今後は、さらに生産ラインの省力化と生産性向上に寄与する製品展開を推進し、ピエゾ素子や燃料電池、太陽電池など、LTCC製品以外の積層プロセス向けの拡販を進めていきます。



シート搬送機構を付加し、さらに進化したHi-Stacker

複合材製品工場の設備増強完了

複合材製品工場(静岡製作所内)では建屋増築工事に続き、生産能力増強、生産効率向上のための新規生産設備導入が完了しました。大型製品の生産を行なう大型5軸加工機、品質検査に使用する大型3次元測定機など、夜間でも連続自動運転が可能な新規設備導入で、CFRP製カスケードの生産能力は従来の1.8倍とな

りました。

近年の航空機業界の活況はめざましく、当社カスケードの需要はますます増大するものと予想されます。今後は、既存製品の生産増に迅速に対応するとともに、当社が培ってきた開発・生産技術力を発揮して、航空機外製品を視野に入れた新規分野への開拓も積極的に進めてまいります。



大型5軸加工機

日機装ベトナム 工場拡張工事進む

ベトナム・ホーチミン市のNikkiso Vietnam MFG Co., Ltd.(日機装ベトナム)では、工場の拡張工事もなく完成します。日機装ベトナムでは、従来年間840万本の人工透析用血液回路を生産していましたが、

工事完成後には年間1,300万本の生産能力を有する工場となり、今後の需要拡大に迅速に対応できる体制が整います。当社では欧州・アジアなど急速な拡大が続く海外の市場に向けて、より価格競争力のある製品供



工場拡張工事完成予想図

給も視野に入れた新たなビジネス展開を目指してまいります。

人工腎臓装置 欧州工場稼働開始

ドイツ・ハノーバー市のNikkiso Medical Systems GmbHでは、欧州向け人工腎臓装置DBB-05の現地生産工場(敷地面積約20,000㎡、床面積約5,000㎡)を取得し、その改築工事を進めてきました。本年3月にはその内装工事も終わり、7月からの本格的なノックダウン生産と

出荷を目指し、現在は部品受け入れなどの準備を着々と進めています。

今後は、欧州をはじめ成長が見込まれる海外市場向け人工透析関連製品の重要な生産拠点として、国内の工

場に並ぶ生産能力を持たせていく予定です。



欧州工場外観

海外で活躍する 日機装グループ



Nikkiso Cryo, Inc. (米国法人)

所在地：4661 Eaker Street North Las Vegas,
NV 89081-2746, U.S.A.

TEL：+1-702-643-4900

FAX：+1-702-643-0391

事業内容：液化ガス用機器実液試験受託業務

URL：<http://nikkisocryo.com/>



Nikkiso Cryo, Inc.

Nikkiso Cryo, Inc. (NCI) は、米国ネバダ州のラスベガスにあります。1997年に、LNG（液化天然ガス）を取り扱うクライオジェニックポンプの性能試験を行なうことを目的に、日機装の100%子会社として設立されました。

それまでクライオジェニックポンプの試験は、日機装の東村山製作所で行なっていましたが、同製作所は市街地にあるために規制が厳しく、また、需要の拡大にともない試験の遂行能力が限界に達していました。このため、諸条件に恵まれたネバダ州ラスベガスに新たな大型試験設備を設けたものです。

クライオジェニックポンプは、液化ガスを移送するための特殊なポンプです。ガス化しやすい液を吸い込めるように、また、ガスを外に漏らさないように、モータを含むポンプ全体をタンク内の液化ガスの中に浸します。そのため、ポンプの試験設備は、専用につくられた大がかりなものが必要となります。

性能試験では、 -164°C の極低温かつ可燃性のLNGを使用するため、細心の注意と正確な作業が求められます。NCIでは、最新の設備と熟練したスタッフにより、高い信頼性と安全性が確保され、試験の立会いに来られたお客様からも高い評価をいただいています。

NCIで試験を行なうポンプは、従来すべて日機装の東村山製作所で作られていましたが、2007年から、大型ポンプを中心に、NCIでの生産を開始しました。日本と米国の二つの生産拠点を持つことによって最適生産を可能とし、あわせてクライオジェニックポンプの生産力を増強することができました。日本から米国への移動の時間も不要となるため、納期短縮にも貢献しています。今後は大型ポンプを中心に米国生産を拡大する予定です。

Nikkiso Cryo, Inc. からのメッセージ



お客様、従業員、協力会社との
緊密な協力体制で
目標を達成していきます

Nikkiso Cryo, Inc.
President

Charles Molina
(チャールズ・モリーナ)

NCIは1997年にクライオジェニックポンプの実液性能試験施設として発足しましたが、業務範囲は拡大し、現在では部品の調達を含めたクライオジェニックポンプの生産拠点として実績をあげています。

NCIでの生産と試験の業務は、設計・調達・遂行管理・庶務などを含め、23人のスタッフが支えています。2005年には先進的な試験装置とデータ処理システムを導入し、業界でも先端をいくものと自負しています。また、2007年初めに完成した製造工場は、近年のポンプの大型化傾向に 대응して、6,000平方フィートの建屋には、10トンのクレーンと大型高圧ポンプの組み立てスタンドをそれぞれ2基備えており、組み立て能力が大幅に向上しました。さらに、2008年10月には、9,000平方フィートの新建屋が完成の予定です。ここでは、増加する米国調達品の保管と梱包・出荷作業を行います。

NCIの増強は、拡大するクライオジェニックポンプの需要に応え、市場における日機装の地位確立を目指すためのものです。この目標は、お客様・従業員・協力会社と緊密な協力体制を敷き、高いレベルのビジネスを指向することで達成できると確信しています。



試験ポンプ引き抜き



お客様へのさらなる貢献を
目指しています

Nikkiso Cryo, Inc.
林 敏彦

クライオジェニックポンプの設計担当として日機装に入社して10年、NCIに関わるようになって6年が経ちました。その間NCIは、試験装置や建物など目に見える発展の一方、多様な能力をもつ精鋭のスタッフが揃ったことや、目標に向かってすばやく対応するチームワークが育ったことなど、内面においても大きく成長を遂げたと感じています。

ポンプの性能試験には屋内外での種々の作業が必要ですが、ラスベガスの夏の猛暑は大変な負担となるため、夏の試験は、早朝・日中の2シフト体制をとっています。負荷の大きい分解・組み立て作業を早朝の涼しい時間に行ない、日中は重機を使った短時間の屋外作業や、室内で実施可能なデータ測定などを行ないます。

近年ポンプの大型化が進み、総重量は6トンに及ぶこともあります。NCIでは、安全・確実に作業を進めること、そして、それを支えるため内部連絡を密にして工程を守ることに注力しています。

現在の私の業務は、性能試験で得られたデータの評価や、お客様ごとの要求に合わせたポンプの設計です。これまで、日米スタッフ双方の良い点を尊重し多様性を活用することで、数々の課題を解決してきました。今後も、さらに高まるお客様の要求を満たせるよう、製品の発展を目指していきます。

次のステップである生産設備増強にも全社一丸となって取り組んでおり、お客様にいっそう貢献したいと考えています。



ポンプ組み立て

会社概要・株式の状況

会社の概況 (平成20年3月31日現在)

創業日	昭和28年12月26日 (登記上の設立日は昭和25年3月7日)
資本金	6,094,984,191円
従業員数	連結 3,892名 当社単独 1,330名

役員・執行役員 (平成20年6月24日現在)

代表取締役社長	甲斐 敏彦	執行役員	本間 久
常務取締役	長尾 章弘	執行役員	田代 初男
取締役執行役員	木下 博	執行役員	房前 芳一
取締役執行役員	中村 洋	執行役員	宮田 博明
取締役執行役員	野上 宏	執行役員	伴 信彦
取締役執行役員	西脇 章	執行役員	八木 隆雄
常勤監査役	山本 光祥	執行役員	中村 香
常勤監査役	圓尾 樹生	執行役員	素木 岫一
監査役	中根堅次郎	執行役員	清水 信行
監査役	菊地裕太郎	執行役員	千葉 敏昭
		執行役員	田中 康之

会計監査人 (平成20年6月24日現在)

監査法人 トーマツ

株式の状況 (平成20年3月31日現在)

発行可能株式総数	249,500,000株
発行済株式の総数 (うち自己株式)	72,611,464株 7,989,705株
株主数	9,060名

大株主 (平成20年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
株式会社みずほ銀行	3,199	4.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,591	3.56
株式会社みずほコーポレート銀行	2,577	3.54
三井住友海上火災保険株式会社	1,966	2.70
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,822	2.51
日機装持株会	1,653	2.27
日機装従業員持株会	1,634	2.25
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	1,588	2.18
日本生命保険相互会社	1,500	2.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(中央三井アセット信託銀行 再信託分・GMTBエクイティンバストメント株式会社信託口)	1,404	1.93

グループ会社一覧

流体技術カンパニー

■ 製造・販売

日機装エコー株式会社

サンダイン日機装株式会社

(日機装サンドストランド株式会社から社名変更)

■ メンテナンスサービス

日機装リユーキテクノ株式会社

■ 海外製造・販売

Nikkiso Pumps Europe GmbH

上海日機装ノンシールポンプ有限公司

Nikkiso Pumps Korea Ltd.

Nikkiso Pumps America, Inc.

Nikkiso Cryo, Inc.

インダストリアルソリューションズカンパニー

■ 製造・販売

日機装サーモ株式会社

(日機装ワイエスアイ株式会社から社名変更)

■ メンテナンスサービス・工事

日機装テクニカ株式会社

■ 海外製造・販売

台湾日機装股份有限公司(工業部門)

Microtrac, Inc.

医療機器カンパニー

■ 販売・メンテナンスサービス

日機装東北医工株式会社

■ メンテナンスサービス

日機装M.E.S.株式会社

■ 海外製造・販売

M. E. Nikkiso Co., Ltd.

Nikkiso Vietnam MFG Co., Ltd.

Nikkiso Medical Systems GmbH

■ 海外販売・サービス

Nikkiso Medical GmbH

上海日機装医療器械貿易有限公司

台湾日機装股 有限公司(医療部門)

Nikkiso Medical Korea Co., Ltd.

Nikkiso Medical(Thailand) Co., Ltd.

■ 販売

グランメイト株式会社

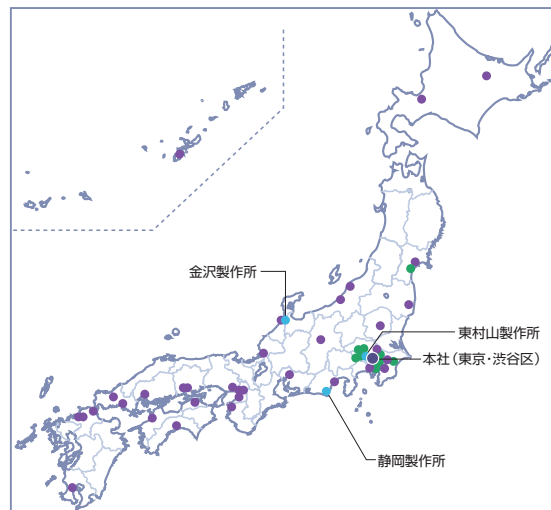
共通部門

創光科学株式会社

Nikkiso America, Inc.

国内拠点・関係会社

● 営業拠点 ● 生産拠点 ● 関係会社



東村山製作所



静岡製作所



金沢製作所

海外拠点・関係会社

● 駐在員事務所 ● 関係会社



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	(1) 事務取扱所 (お問い合わせおよび郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) (2) 取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
単元株式数	1,000株
公告の方法	電子公告の方法により行ないます。 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.nikkiso.co.jp
上場証券取引所	東京証券取引所 (証券コード6376)

お知らせ

各種手続きに必要な用紙のご請求

住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求、名義書換請求、配当金振込指定に必要な各用紙のご請求については、下記のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

●各種用紙請求専用フリーダイヤル

0120-87-2031

●ホームページ

http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

単元未満株式の買取・買増

単元未満株式の買取請求・買増請求は、上記の株主名簿管理人の事務取扱所および取次所でお取り扱いいたしております。なお、証券保管振替制度ご利用の株主様は、お取引証券会社あてにご照会ください。

当社ウェブサイト等のIR情報をご覧ください。

ホームページサイト

<http://www.nikkiso.co.jp>

モバイルサイト

<http://m-ir.jp/c/6376>



日機装株式会社

〒150-8677 東京都渋谷区恵比寿3丁目43番2号
電話 03-3443-3711

